

長期自然体験活動指導者研修会 活動報告

2012/11/30(金) ~ 12/1(土) 長野県売木村

当協会では、山村留学等の長期自然体験活動に取り組む団体の相互交流や、指導者の資質向上を目指して、研修会を、子どもゆめ基金の助成を受けて実施しています。

この度、今年で30年目を迎える長野県売木村の山村留学施設を拠点に、各団体の事例発表や情報交換、体験実習を通して、相互理解と個々のスキルアップを図る研修会を実施しましたので、関係団体の皆様にご報告させていただきます。



事例発表1 「売木村山村留学の取り組み」

売木村は今年度より村が運営する山村留学地となり、長い伝統を生かしつつ、地域や学校との連携をより深めるよう運営されています。センターと農家を併用した学園方式を実施し、指導員2名と村職員2名が、日々の指導にあたっています。

農家生活では、より地域と密着した体験を豊富にし、地域児童生徒との深い交流も目指しています。

- 【経緯】 昭和58年度から山村留学を開始。延べ334名の留学生を受け入れる。
- 【地域】 今までに里親を経験した戸数は延べ43戸あり、地域に山村留学が根付いている。
- 【課題】 学校との連携…留学決定の面接に学校教員が参加、部活動への参加、教職員のセンター訪問等。（学園⇄学校⇄里親⇄行政⇄地域）の新たな連携方法の模索

【人口等の推移】(人)

年度	人口	小学生数	中学生数	小中合計数	うち留学生数
S58	860	54	32	86	3
H4	756	42	19	61	11
H14	708	42	19	61	12
H24	627	25	25	50	6



<http://www.urugi.jp/sanson/>



太平洋まで完歩し、ガッツポーズして喜ぶ小野君

5区間で 山村留学中学生の小野君
 千葉市から売木村へ、20km以上の行程を完歩した。山村留学という小野君は、中学校1年の小野君が、13歳で、同村から愛知県の蒲郡市まで、知原蒲郡市の大金山を歩いて目指すオキキに挑戦。休日を休んで5回に分けて走り、8日までに100kmを歩いた。同村の留学生は、9月に3日間、10月に2日間の日程で、毎日20km前後歩いている。小野君は、研究に取り組んでいるが、小野君は昔の人が歩いて海から塩を運んで、学校ではソフトで、二ノ部が所属。それで、太平洋まで行くことも途中足に魚の目ができたり、苦しんでやめようと思ったこともあった。

売木から蒲郡まで完歩

あつたというが、山を登るたびに変わっていく風景にも励まされて太平洋に無事たどり着いた。「全部歩きはきつかったけど、これを乗り越えたら成長できると思った。案外進んでいるので、自分からいことも進んで出来るよな気がする」と笑顔。同行した留学センター指導員の市川太郎さんは「普通に生活し



センター長の村松松美さん。里親としても経験豊富な方です。



伊藤指導員。様々な体験活動と子ども様子を話して頂きました。

【留学生の活動一例】
 塩を運んだ古道を歩いて研究しました。



留学生との夕食会

事例発表 2 「企業組合子どもの森の取り組み」

企業組合子どもの森は、長野県王滝村の山村留学を村営から引き継いで実施している団体です。発表者である干野根理事長には、村営と民間という山村留学の運営方法の違いによるメリット・デメリット、山村留学に携わった10年間の試行錯誤や、これからの山村留学のあるべき方向について、夢のあるお話をして頂きました。

以下に、いくつかスライドデータをご紹介します。

②村営時代のメリット、デメリット

- | | |
|--|--|
| メリット <ul style="list-style-type: none"> 指導員の補償と給与安定→長期勤務可 募集・運営は村、指導は指導員→気楽 学校・教育委員会との関わり濃い→理解得やすい | デメリット <ul style="list-style-type: none"> 活動自由度と備品購入が不便→突発的
活動は不可、備品が揃うまで時間かかる 村側は経費と、健全運営責任がのしかかる 理念弱いため、募集苦労することが多い |
|--|--|

③自主運営でのメリット、デメリット

- | | |
|--|--|
| メリット <ul style="list-style-type: none"> 活動自由度高い、備品も即購入可 運営に独自色させる 理念に共感した親子が集まってくる | デメリット <ul style="list-style-type: none"> 運営は子ども数に毎年左右される→不安定 募集がうまくいかないとすぐたちゆかなる 学校・教育委員会との関係薄れる→他人事 |
|--|--|

⑤補助金は必要か？

- 子どもの森は1年目、7年目だけ村から補助金がでて、また1年目、2年目だけ県の支援金にも申請。そこから見えてきたのは…
- 基本的には補助金なしで自主運営できると当初は考えていた
- しかし、子どもの人数がそのまま運営に影響するので、補助金はあったほうが長続きする
- 補助金は主に活動や備品にのみ適用
- 村にも意識(責任)をもたせる→相互協力体制

⑥活動プログラムとこだわり

キーワードは「場作り」「積み上げ」

- 動体体験と静体体験のバランス
 - 生活環境づくり(癒し、くつろぎ、居心地よさ)
 - 11月に感謝祭
 - 郷土愛育成体験(木管11箇所、木管5本、太鼓、民舞)
 - あるくこと(リヤカー便利)
 - 礼儀作法を学ぶ(剣道)
 - 掃除へのとりくみ(自問清掃)
 - 食事や生活の作法(食材、食器、調理内容)
- 伝統づくり、子どもたちの自尊心の育成、子どもの森らしさ

⑦質へのこだわり

- 募集がうまくいかなかったので→なにを山村留学に求めているのか調べた
- 募集活動はほぼHPのみ→内容・更新が命
- 理念の大切さ、施設の改善、フィールドのよさ
- 同じ理念で動ける仲間づくり
- 安定収入への挑戦
- 理念を掲げることの威力、掃除からの教訓、経費と収入のバランス、誠実さと継続性
- 質を高めていくことが、結局一番近道

⑧新たなところみと提案

- 山村留学の寮形式と里親併用選択方式
- 指導員の養成(山留OBも含め)
- 海と山で交換山村留学
- 山留OBたちの活動の場づくり(地域活性化)
- 総務省の「地域おこし協力隊」の活用
- 全国の山村留学への視察
- 縦横のつながりのシステムづくり(人材のさらなる交流、物の貸し借り)

<http://www1.a.biglobe.ne.jp/kodomori/>

座談会「学校教育と山村留学」

一日目は、会場近くの売木小中学校に移動し、見学や校長先生を交えた座談会を行いました。

各参加者からは学校運営についての質問が相次ぎ、校長先生からは、山村留学の学校における効果等についてお話を頂きました。



大内勝校長によるお話

体験実習「椎茸原木の切り出し」

二日目の研修は、実際の指導現場に役立つ活動例として、椎茸の原木切り出しを売木留学生と共にを行いました。

講師の松村さんは、大臣賞を受賞した事もある、干し椎茸栽培の分野では名の知れた権威。木の伐採時期や方法、椎茸の生態、森林資源を引き継ぐこと等について詳しくお話をお聞きし、実際に山に入って切り出しを行いました。



松村さんによる体験実習



この他、日々の生活での子どものケアに関する研修や、実際に長期間集団生活をしている子ども達との夕食交流会等を行いました。

主催：特定非営利活動法人 **全国山村留学協会**

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-6-7-5F

tel:0422-56-0595/fax:0422-56-0351/info@sanryukyo.net